

学生大使 実施報告書

地域教育文化学部・地域教育文化学科

2年 土屋笑子

私は、3月1日から3月15日までの約2週間、ベトナムのハノイにあるベトナム国家農業大学に派遣していただきました。ベトナムでは、日本語クラスを開いて日本語を学びたい人たちに教えていました。授業は、1日に9時から10時30分と15時から16時30分の2回開いていました。私たち山形大学の学生は7、8人いたのですが、ベトナム人の生徒の数が、日によっても違うのですが大体1~6人くらいの出席率でした。なので、私たちチューターを二手に分けて、午前と午後のどちらかを担当するというようにしていました。日本語教室に来てくれる学生たちは、みんなそれぞれ日本語の学習期間も習得レベルもバラバラで、それぞれのレベルに合った教え方を考えるのが難しかったです。上級の子は、かなり勉強が進んでいるので、勉強内容も説明するときにも私も一緒になって悩んでしまうことがあったり、質問にもうまく答えられないことがあったりしました。中級や下級の子たちの授業をするときは、説明することというよりも、伝えることに苦戦しました。日本語が通じない時は英語で授業をしていましたが、英語が通じない子には、どう教えたら良いのか悩みました。私は生徒の名前を使って例文を作ったり、教えた言葉を使って実際に自分自身についての文を作ってもらったりしました。面白い例文や大学生らしく実用的な例文を考え、とにかく多く例文を作ってどのようにその言葉を使うのか、いろいろなパターンで理解してもらおうとしました。授業では生徒がやりたいことがあればそれを優先して、教科書に沿って学ぶだけでなく、数字や算数、自然な会話や日本の歌なども取り入れました。特に私がよかったと思うことは、日本の歌を使ったことで、私は「上を向いて歩こう」の歌詞の穴埋め問題を作り、歌を聴きながら空欄を埋めてもらって意味を解説するというのをしました。歌も覚えてくれて、とても楽しんでくれたみたいでした。

ベトナムの学生たちはみんなとても勉強熱心で、いつも真剣で、疑問に思ったことはすぐに質問して、そして積極的に習った言葉を使って話そうとしていました。ベトナム国家農業大学の授業は朝6時30分から夜9時までであって、その中で授業を組んでいるようで、みんな忙しい中で私たちの日本語クラスにも来てくれていました。その熱心さ、真剣さに私も応えようと授業に取り組みました。2週間授業をするうちに、教えるのにも慣れて最初よりも教え方が上手くなったと自分で感じることができ、また生徒たちがしっかりと理解してくれて私が教えた言葉を使って話してくれるようになったときはとても嬉しくて達成感を感じました。そしてベトナムの学生たちのその意欲を私も見習おうと感化されました。

またベトナムでは、新発見がたくさんありました。最初にびっくりしたのはやはりベトナムの交通状況です。テレビではよく見たことがありましたが、車よりもバイクがかなり多くて、みんな車線を全く気にしない運転をしていました。歩行者も行った者勝ちみたいな感じで道路を渡っていました。自分が歩行者の時は、怖くてベトナム人が一緒にいない

と道路を渡れませんでした。そして、ベトナムには私が知らなかった食べ物がたくさんあって、食べてみるととても美味しかったです。私のベトナム食 BEST 3は1位から順に、バインミー、バインセオ、ソインセオです。バインミーは大きなパンに肉やパパイヤを入れて焼いたもの、バインセオは色々な具材を卵で包んで油で揚げ、それをライスペーパーでくるんでピリ辛のソースにつけて食べるもの、ソインセオはもち米の上に肉や野菜がのっている丼みたいなものです。バインミーは毎日のように食べていたので、日本に帰ってから食べたくなくて仕方がないくらいです。ベトナム食といえばフォーが有名ですが、私はフォーよりもこの3つが本当に美味しかったです。あとはデザートもたくさんあって、スムージー、ヨーグルト、チェー、豆腐などが定番みたいです。あとベトナムコーヒーはとても甘くて濃厚で、普段コーヒーをあまり好まない私でもとてもおいしいと感じました。他にもカエル、アヒル、猫など珍しいものも食べてきました。そしてベトナムで一番感動したことは、ベトナム人はとても気さくで人懐っこくて、友達思いだったということです。みんなとてもフレンドリーで初対面でもたくさん話してくれて、家に招いてくれる子もいました。そしてベトナムでは人と人の心の距離がとても近いと感じました。友達同士でいいことも悪いことも思ったことを言い合って、喧嘩も多くするみたいですが、その分相手になんでも打ち明けているし、お互いに信頼し合っているということですよ。真剣に話も聞いてくれるし、一緒にいてとても心が温かくなりました。そして、ベトナム人は心だけでなく体の距離も近いです。パーソナルスペースが日本人よりも狭いのだと思います。仲のいい女の子同士はいつも手を繋いだり腕を組んだりして、くっついていることが多いです。私もベトナムではみんなとくっついていました。なんだかそれだけでとても仲良くなれた気がして嬉しかったです。男の人も話すときは日本人よりも顔が近いと思います。私は恥ずかしいので少し遠ざかるようにしていましたが、ベトナム人のフレンドリーなところは本当に素敵でした。

このプログラムに参加して、人に何かを伝えることは難しいということを感じました。それはお互いの母語が違えばなおさら難しくなります。私が就職したいと考えている仕事は、日本人とも海外の人とも多く接する機会がある仕事なので、日本人や日本語学習者の方に対して分かりやすく説明する力、その他の方に対しては英語で十分に会話ができるような英語力を身に着けるべきであると感じました。今後は英語の勉強をコツコツと積み重ねて、まずはTOEIC700点を目指し、山形大学で学習している留学生に積極的に話しかけて会話の練習もしようと考えています。私もベトナムの学生のように勉強に意欲を持ち、熱心に取り組もうと思います。またベトナムでは2週間という短い間だったのに、たくさんの人と仲良くなることができ、今でも連絡を取り合っています。とても楽しくて、美味しいものもたくさんあって、ベトナムが大好きになりました。また夏にベトナムの友達に会いに行こうと考えています。また行きたくなるくらいにベトナムはいい所でした。今回はこのようなプログラムに参加させていただいて、たくさんの経験をさせていただいて本当にありがとうございました。